

振り返りシート(実践型 GS コース)

学籍番号 2281087h氏名 佐々木稜太

参加したプログラム名

カンボジアプノンペンで行う現地での清潔な水のアクセスについての現地調査

「学びの設計図」で設定したリサーチ・クエスチョン

- ① 2000 年初頭にプノンペンの中心は「プノンペンの奇跡」と呼ばれるように水道整備事業が大成功したが、約 20 年経った現在のプノンペン中心の水回りの状態はどのようなものなのか自分の目で確かめたい。さらに、プノンペンの中心ではなく、近郊の町では水道整備はどのような状況かを実際に自分の足で訪れ、現地の人々に聞き取り調査をすることで、今後世界的に発生するとされている「水不足」の対策を考えていきたい。
- ② カンボジアには数多くの孤児院が存在するが、もう既に支援を受けている孤児院はどのような支援を受けているかといったことや今後どのような支援を必要としているのかを実際に孤児院を訪問し、見学、孤児院で働く人々にインフォーマルインタビューをする中で調査していきたい。

【以下のポイントについて、約 4,000 字で記述。以下のポイントの記述順は問わない】

1. フィールド学修について、どのようなグローバル 이슈に、どのように取り組んだかを記述
「学びの設計図」のリサーチ・クエスチョンに関連したこと、関連していなくても新たに取り組んだイシューについて、記述すること
また、計画通りにできたこと、計画を修正した点などを、理由を含めて記述
2. フィールド学修を行ったことで、理解が深まったことや問題意識の変化などを、理由を含めて記述
(日程記載は不要)
「学びの設計図」のリサーチ・クエスチョンに関連したこと、関連していなくても新たな気づきがあった点について、記述すること
【主観的記述でも構わない】
3. フィールドでの協働を通して学んだことを記述
どのような人々と、どのような交流や協働を行ったのか、その交流や協働から感じたことを記述すること
感想ではなく、学んだ点に関してどのような先行研究があるのかを調べ (文献名を記載すること)、先行研究の内容とフィールドでの学びの共通点や相違点などを考察すること
【客観的記述が求められる】
4. 事前学修～プログラム参加を通して学んだことを、これからの研究や就職などのキャリアにどのように活かすか、具体的なイメージを記述
漠然としたものではなく、卒業までの活かし方、卒業後の活かし方について計画を記述すること

私は、今回の GSP で主に 2 つのフィールドワークを行った。1 つ目は、「プノンペンの中心と郊外を訪れて行った清潔な水のアクセスに関するフィールドワーク」だ。2 つ目は、「プノンペン市内にある孤児院を訪れ、今後どのような支援を必要としているのか実際に見学、孤児院で働く人々との交流をするフィールドワーク」である。この二つのフィールドワークの比率としては、「プノンペンの中心と郊外を訪れて行った清潔な水のアクセスに関するフィールドワーク」が 8 割、「プノンペン市内にある孤児院を訪れ、今後どのような支援を必要としているのか実際に見学、孤児院で働く人々との交流をするフィールドワーク」が 2 割である。

まず、始めに清潔な水に関するフィールドワークについて述べる。当初の予定では、私が今回カンボジアで重点的に行う予定だったのは、プノンペンの中心地ではなく、「首都、プノンペン近郊の町や村における清潔な水のアクセス」について調査だった。実際に村を訪れることができたのは、1 回だけとなってしまった。村の名前は「ភូមិប្រុយវ៉ាត (プーム プロブヴォアト)」である。プノンペンからは、トゥクトゥクで 1 時間ほどと少し離れている。なぜ、この村をフィールドワーク地にしたかという点、知人のカンボジア人のリンさんがこの村の出身であったからだ。実際に村に行き、ご飯などをご馳走になった後、事前に作成していた Google Form に基づきながらリンさんと日本人でカンボジア在住の松井さん、そして私の 3 人で一軒一軒訪問して、アンケート内容を質問していった。今回初めてフィールドワーク、海外で学術的なインタビューを行ったことで難しいと感じたことが 2 点ある。1 点目は、「言語」の面である。私は、日本で今回の渡航に向けて準備している際には、小さな村ではあるが、何名かは英語が話せる人達がいる、実際に自分の言葉で直接コミュニケーションを取ることができるであろうと考えていた。しかし、結果的にこの村では英語を話せる人には 1 人も出会わず、全てクメール語で調査を行わざるを得なかったという点で、リンさんと松井さん無しでは、この調査を行うことは非常に難しかったと感じた。2 点目は、フィールドワークやインタビューをするという点で、「その村の人間ではない者が村で調査することの難しさ」を非常に感じた。今回は、リンさんが調査を行った村の出身であったことから顔なじみの人々であったため、部外者の私を快く歓迎してくれて、さらに調査にも協力してくれたと考えた。私は、以前、海外に住んでいたことがあった為、見ず知らずの土地に行って新たなコミュニティに属するという経験は数多く行ってきたが、今回のような地域のつながりが非常に強く、基本的に村の住む人々の顔は知っているという感じだと、とてもフィールドワークや現地での調査は難しいと感じることがあった。結果的にこの村で行った調査の総数は、15 件集まった。以下が、事前作成していた質問内容である。

Google Form の質問と選択肢

* 答えたくない質問には答えなくても全然大丈夫ですという旨をアンケート冒頭に記述しています。

・ Age (អាយុ)

Under 18 (អាយុក្រោម ១៨ ឆ្នាំ)

18-30 (អាយុ ១៨-៣០ ឆ្នាំ)

31-45 (អាយុ ៣១-៤៥ ឆ្នាំ)

46-60 (អាយុ ៤៦-៦០ ឆ្នាំ)

61 and above (អាយុ ៦១ ឆ្នាំឡើង)

・ Sex (ភេទ)

Male (ប្រុស)

Female (ស្រី)

Other (ផ្សេងទៀត)

Prefer not to say (មិនចង់ឆ្លើយ)

- Monthly salary (ចំណូលប្រចាំខែ)

0-100 USD (០-១០០ ដុល្លារ)

101-200 USD (១០១-២០០ ដុល្លារ)

201-300 USD (២០១-៣០០ ដុល្លារ)

301-400 USD (៣០១-៤០០ ដុល្លារ)

401-500 USD (៤០១-៥០០ ដុល្លារ)

501 USD and above (៥០១ ដុល្លារ និងខ្ពស់ជាងនេះ)

- Are you able to access water consistently? តើអ្នកអាចទទួលបានទឹកបានយ៉ាងស្ថិតស្ថេរទេ?

yes បាទ/ចាស

no ទេ

- Please choose Yes សូមជ្រើសរើសអ្វីដែលអ្នកគិតថា ជា បាទ/ចាស

You think that mineral water is cheap. (អ្នកគិតថាទឹកសុទ្ធច្រោកទេ?)

You often buy mineral water made in Cambodia. (អ្នកជានិច្ចទិញទឹកសុទ្ធដែលផលិតនៅកម្ពុជាជាប្រចាំទេ?)

You always keep mineral water at home. (អ្នកតែងតែមានទឹកសុទ្ធនៅផ្ទះទេ?)

You drink mineral water almost every day. (តើអ្នកទទួលបានទឹកសុទ្ធជាប្រចាំរៀងរាល់ថ្ងៃដែរឬទេ?)

Have you ever run out of drinking water? (តើអ្នកធ្លាប់អស់ទឹកផឹកទេ?)

Have you ever felt stressed about getting drinking water?

(តើអ្នកធ្លាប់មានក្តីព្រួយបារម្ភអំពីការទទួលបានទឹកផឹកដែរឬទេ?)

- How do you usually get drinking water? (តើអ្នកជាធម្មតាទទួលបានទឹកប្រភេទអ្វី?)

Boiled Water (ទឹកឆ្អិន)

Tap Water (ទឹកម៉ាស៊ីន)

Mineral Water (ទឹករ៉ែ)

Well Water (ទឹកអណ្តូង)

Rain water (ទឹកភ្លៀង)

River water (ទឹកទន្លេ)

Other (ផ្សេងទៀត)

- If you buy drinking water, which size of bottled water do you usually buy at markets or supermarkets?

(ប្រសិនបើអ្នកទិញទឹកពិសារនៅផ្សារឬក៏ផ្សារទំនើប តើទំហំទឹកទិញនៅទំហំមួយណា?)

0-350 ml (០-៣៥០ មីលីលីត្រ)

351-500 ml (៣៥១-៥០០ មីលីលីត្រ)

501-1000 ml (៥០១-១០០០ មីលីលីត្រ)

1001-2000 ml (១០០១-២០០០ មីលីលីត្រ)

2001 ml and above (២០០១ មីលីលីត្រ និងខ្ពស់ជាងនេះ)

- What kind of water do you usually use when you cook something?

(តើអ្នកប្រើទឹកប្រភេទអ្វីជាធម្មតា នៅពេលធ្វើម្ហូប?)

Mineral water (ទឹកសុទ្ធ)

River water (ទឹកទន្លេ)

Tap water (ទឹកម៉ាស៊ីន)

Well water (ទឹកអណ្តូង)

Other (ផ្សេងទៀត)

- What kind of water do you usually use? (ទឹកប្រភេទណាដែលអ្នកប្រើជាធម្មតា?)

Mineral water(ទឹកសុទ្ធ)

River water(ទឹកទន្លេ)

Tap water (ទឹកម៉ាស៊ីន)

Well water (ទឹកអណ្តូង)

Other(ផ្សេងទៀត)

- For washing cloth (សម្រាប់បោកសំលៀកបំពាក់)

What kind of water do you usually use? (តើជាធម្មតាអ្នកប្រើទឹកប្រភេទអ្វី?)

Mineral water (ទឹកសុទ្ធ)

River water (ទឹកទន្លេ)

Tap water (ទឹកម៉ាស៊ីន)

Other (ផ្សេងទៀត)

まず、回答結果として今回調査を行った村では、“Are you able to access water consistently?” という質問に対して回答者全員が” Yes” と回答したことから、日常的な水のアクセスがそれほど困難ではないと分かった。私自身、この村に実際に行ってみて、村の人々の家の中や実際にある家庭でご飯をご馳走になったが、水のアクセスに困ってそうではないと感じた。この村の平均的な月給は、回答を見る限り 201-300 USD (២០១-៣០០ ដុល្លារ) の層が最も多く、Trading Economics によると 2024 年のカンボジアでの最低月給は、\$204 であるため調査を行った村では、カンボジアの最低月給に近い収入で生活を送っている人々が多いことが分かった。そのため、富裕層が多い地域ではなかったが、調査結果から大多数の家庭では、ミネラルウォーターを常備しており、そのミネラルウォーターに対しては安いと考えていることが明らかになった。今回私が現地で調査をする中で非常に驚いたのは、「雨水の利用」である。今回調査に協力して下さった人々は、雨水を飲料水・料理・トイレやシャワー・洗濯に使用する水、としてそのまま利用されている方々が多かった。基本的に訪問したどの家庭にも同じサイズの大きな壺に雨水を溜め、壺が多い家庭だと 10 個以上あった。雨水の集める方法としては、家の屋根を斜めに作り、雨どいを屋根と接触する形でつけ、地上に大きな壺を置いておくというものだ。さらに、今回私がカンボジアを訪れた際には「雨季」ということもあって、スコールのように毎日のように短時間で豪雨になるという気候であったことから、どの壺にも多くの水が入っていた。疑問に思った点としては、目視でそこまで雨水であることから水が濁っていたりはしていなかったが、飲料水として貯めた雨水を飲むのは衛生面的に大丈夫であるのか気になった。当初は、この村に 3 回訪れる予定にしていたが、私がカンボジアに滞在していた間に、リンさんのお父様が急死されてしまった関係で、1 回しかこの村には訪れることができなかった。スケジュールの前半で、そういったことがあったので、急遽計画を変更し、王立プノンペン大学に行き、岡山大学さんのご協力もあり、日本語学科の生徒さんたちに私の水の調査にオンラインアンケートで回答してもらおうと考え、日本語学科長の先生と職員さんにアンケートフォームを送付したが、音信不通になってしまった。そこで、再度プランを変更し、カンボジア渡航前からコンタクトを取っていた NUM (The National University of Management) の卒業生の Remian さんと Ren さんのお力をお借りして、ご友人に私の作成したフォームを送って頂いてオンラインベースで調査を行った。結果的に今回オンラインベースで調査をしたことで感じたのは、オンラインベースでの調査はかなり難しいことが分かった。全体の解答済みのアンケートフォームの総数は、78 件集まったが、個別で見えていくと、無回答の項目の質問が多く、正確に調査結果として使える回答の件数が大幅に減ってしまった。若干、オンラインベースでの調査は失敗する予感がしていたのもあって、知人の Ren さんに現在 NUM で働かされている Va さんを紹介して頂き、NUM のデジタル経済学部 of 学生だけのキャンパスに訪問させて頂き、数名

の学生に私が調査している内容と NUM での学生生活についてインタビューさせて頂いた。まず、水についての質問に関しては、両親の所得が平均よりも高い関係で、水道水を煮沸する機械を通して飲み水として飲んでいるという回答を得た。それまで行った調査ではなかった回答であったので、所得が高めの家庭ではそのようにして日々の飲み水を獲得していることが分かった。次に、NUM の学生との交流を通して気づいたのは、NUM のデジタル経済学部の学生の英語力の高さや目的意識がはっきりしており、経済発展が著しいカンボジアにデジタルの面でも貢献したいという意思の強さを感じた。さらに、私の指導教員の佐藤真行先生の知人である NUM のナリット教授ともお会いする機会を持ち、私が行った調査や調査を通して得た結果・感想についてアドバイスを直接頂くことができた。特にアドバイスの中で印象的であったことは、「オンライン調査は私はしません。なぜならば、信用性にかけるからだ。」という発言があった。私もその当時、非常にオンライン調査の難しさを感じていたため、その言葉の意味がとても理解できた。次回の研究や調査等でカンボジアを訪れた際にはナリット先生から頂いたアドバイスを念頭において準備・調査を行いたいと思う。

次に、プノンペンの孤児院に訪問したフィールドワークについて述べる。孤児院のフィールドワークに関しては、今回現地でお世話になった株式会社トライアンフカンボジア様の依頼で行った。まず、Mosvy (Ministry of Social Affairs, Veterans and Youth Rehabilitation) というカンボジア政府関係の機関とコンタクトを取り、「មជ្ឈមណ្ឌលទារក និងកុមារជាតិ」という孤児院を訪問し、孤児院の院長さんと共に施設を見学し、その後院長さんと孤児院の現状について英語で話し合いを行った。孤児院を訪問したのは、今回で2回目となり、前回はフィリピンのセブで孤児院のボランティアをした経験がある。今回訪問したプノンペンの孤児院は、セブで訪れた孤児院よりも3倍以上多き施設で孤児の人数も230人いた。Mosvy のデータによると、私が訪れた孤児院が最もプノンペンの孤児院の中で障害者の方を受け入れており、私も実際に訪問して驚いたのは、様々なセラピールームがあり、理学療法士などによるセラピーを受ける体制が存在した。障害者の中にも発達障害の方もいれば、肢体不自由の方も多くいらっしやう。実際に各部屋の見学の際にも寝たきりの障害を持った孤児も多くいた。院長によると「大半のここにいる子供たちは、親に捨てられて、ここにいる」と言っていた。カンボジアは歴史的に高齢者が少なく、とても若者が多い国であり、町には活気にあふれているが、その一方で幼い子供が日中に町の市場などで商売をしている姿もあった。カンボジア人の一部には「子供は労働力である」という考えを持っている人々もいると感じ、仕事ができる状態でなければ子供を捨てるということもまだ現状あるという話を聞いた。非常にそういった話を聞きながら、孤児院を見学するのは胸が痛く、考えさせられた。今回、孤児院を訪問した事で、「カンボジアにおける障害者教育」に興味を持った。古山によると「カンボジアの教育開発について論じる先行研究および協力実践は、依然として『基礎教育の普及』、特に学校建設等による『教育の量の確保』が主となっている。これについて今後は「教育の質の改善」を求めるうえでも、障害を含む特別な教育的ニーズを有する子どもへの教育機会の実質的な保障は、議論されるべき課題のひとつである」と述べている。私が滞在していたトゥールトンポンという地域でも最近幼稚園のような施設ができ始めてきていたり、「教育の量の確保」を目指す動きは感じられたが、引用部分にもあるようにあるように「障害を含む特別な教育的ニーズを有する子どもへの教育機会の実質的な保障」はこれから改善していかねばならないと強く感じた。カンボジアでは、2007年に「チャイルドフレンドリースクール政策」というものが障害者にも該当する政策内容を持つが、古山によると「『チャイルドフレンドリースクール政策』においても、インクルーシブ教育が検討課題として認識された点については評価できるが、具体的な取り組み・成果を示すまでには至っていない。」と述べている。今後、カンボジアの障害者教育が発展していくために何か自分自身ができることを探していきたいと思う。

最後に今回のGSP研修全体で学んだことを述べる。それは、「実際に現場に行き、フィールドワークすることの大切さ」である。事前学習の段階では、カンボジアに関する書籍や論文を読み、座学で知識を得たつも

りになっていたが、実際に現地に行ってみると自分自身が考えていた内容と異なることがあり、多くの新たな知識を得ることができた。今回行った2つのフィールドワークは、私にとって初めての経験であり、多くの失敗やアクシデントもあった。しかし、今回のように思いがけないミスやハプニングが起こったとしても状況を正確に把握し、もう一度計画を立て直すことで何とか自分の知りたいと掲げていた内容の結果は得られたと思う。これから社会に出ることで常に自分の思い通りに進むことは少ないかもしれないが、何か問題が起きた際には焦らず、少し時間を取り、もう一度その時の最良のプランを考えることでゴールは見えてくる可能性は大幅に上がってくると今回の経験を通して強く感じた。しかし、それと同時に忘れてはならないことは、常に誰かの協力があって今回のGSPが実行できたということである。最後に、多くのサポートをしてくださったGSPオフィスの先生方、指導教員の佐藤真行先生、株式会社トライアンフカンボジアの松井さん・リンさん、NUMのナリット先生、この場を借りて、改めて皆様に深い感謝の意を表します。

[参考資料・引用文献]

古山萌衣.”カンボジアにおける障害児教育政策の展開”. 人間文化研究, 2016年1月, 25号, p. 119-128.

Trading Economics, 「Cambodia Minimum Wages」

<https://tradingeconomics.com/cambodia/minimum-wages>

(最終アクセス : 2024年9月26日)

秀逸と認められた学びの設計図をGSP説明会等において匿名で紹介することがあります。このことに同意しますか。

はい

いいえ